

2009年3月期第2四半期決算説明会 取締役常務執行役員 阿部 和彦 説明要旨

2009年3月期第2四半期 決算短信補足資料: 業績概況

2009年3月期第2四半期決算の概況と財務方針につきまして簡単にご説明いたします。第2四半期の決算は、コンシューマ用ゲームソフト事業およびキャラクターコンテンツ事業が好調に推移いたしました。一方で、アーケード施設運営事業およびコンテンツエキスパンション事業は軟調に推移しております。

詳細を申し上げますと、コンシューマ用ゲームソフト事業の中でも、国内は非常に好調に推移しております。昨年度の3月末に発売した「モンスターハンターポータブル2nd G」のレポートが引き続き好調であり、また廉価版の販売も非常に順調に推移しております。海外ですが、第2四半期までは大型タイトルがありませんでしたので、廉価版を中心とした販売や、PCダウンロード配信などの新しい取り組みを行いました。その結果、販売単価の低い商品が中心となりましたので、昨年度と比較すると海外は営業利益も減少しております。一方、下期は様々な施策を考えており、コスト削減も徹底的に行ってまいります。

アミューズメント施設運営事業については、市況が回復には至らず、期初計画を下回りました。また、コンテンツエキスパンション事業ですが、株式会社エンターライズと提携し、パチスロ機1タイトルを発売いたしました。モバイルコンテンツ事業では、国内において「逆転裁判」シリーズが軟調に推移いたしました。一方で、北米のモバイル事業は好調に推移しております。最後に業務用機器販売事業ですが、昨年度は「ドンキーコング バナナキングダム」の事故により販売計画を大きく下回っていましたが、今期はその影響もなくなり、上半期は黒字に転換しております。全体では、売上高は横這い、経常利益以下は約10～20%の増益を確保しています。

P.3-5 連結損益計算書

実績ベースでの前年同期比の増減につきましては、売上高は横這い、営業利益、経常利益、純利益は増益となっております。受取利息および為替差益で約9億円あり、経常利益が大幅に増加しています。計画対比では、売上高は約10%の減収となった一方、利益は計画通り推移しました。パチンコ・パチスロ事業での大幅な売上の減少により、売上高は計画未達となっております。利益はコンシューマ用ゲームソフト事業が好調に推移したため、計画通りの利益を確保しています。

P.6-8 セグメント別概況

続きまして事業セグメントの概況です。コンシューマ用ゲームソフト事業はご説明の通り、売上高は横這いですが、営業利益率は約24%と改善しております。アミューズメント施設運営事業は、売上高は横這いですが、営業利益率は大幅に低下しました。業務用機器販売事業は、先程ご説明しました通り、昨年度の事故の影響がなくなったことに加え、ビデオゲーム機「ストリートファイターIV」を販売したことで数字を大きく伸ばしております。一方で、コンテンツエキスパンション事業においては、売上・利益ともに大幅に減少しました。

続いて地域のセグメント概況です。日本国内はご覧のとおり、好調に推移しております。一方で、欧州・北米は第2四半期まで大型タイトルがありませんでしたので軟調に推移しています。下期は大型タイトル「ストリートファイターIV」や「バイオハザード 5」などが発売されますので、欧米は下期に大幅に回復する計画です。

P.9-12 連結貸借対照表

大きな変化はございません。純資産が21億円程増えており、自己資本比率は60%を超えました。漸く業界他社並の水準に到達しました。

資産の部ですが、受取手形および売掛金は前期末に発売された「モンスターハンターポータブル2nd G」などの売掛金が約80億円回収されています。仕掛品およびゲームソフト仕掛品の増加は、回収した資金を開発に投資していることによるものです。うまくキャッシュフローを循環させていることがお分かりかと思えます。

負債においても、大きな変化はございません。長期借入金および短期借入金の増減は、短期を返して長期に振り替えたことによるものです。

P.13-14 連結キャッシュフロー計算書

営業キャッシュフローですが、売掛債権の減少により約88億円増加し、一方で先程の説明の通り、仕掛関連で約76億円の減少となっております。投資活動と財務活動キャッシュフローは、例年並の数字になっており、投資はアミューズメント施設の投資が主な内容です。財務キャッシュフローの減少は、配当金の支払い等によるものです。

P.15-16 財務活動の基本方針

おそらく一番ご関心があるのは、来年3月末に償還を迎える転換社債150億円のリファイナンスの方法かと思えます。転換されればよいのですが、現状の金融マーケットの環境が芳しくない中で、転換されない場合も想定しております。その際はコミットメントラインが150億円ありますので、これを一旦使用する方針です。場合によっては、コミットメントラインの増額等も含めまして、流動性を一層確保していきたいと考えております。

以上が決算の概要と財務の方針です。ありがとうございました。